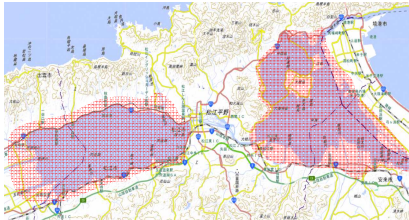


生物・生態サイトカード

通しNo.		B-5		更新日	2025/3/19
サイト名		じょうやく しんじこ なかうみ ラムサール条約と宍道湖・中海			
基本情報	区分	☒ 動物 ☒ 植物			
	生息地	島根県松江市・出雲市・安来市、鳥取県米子市、境港市(宍道湖・中海)			
	分類				
	管理団体／保護団体／モニタリング	島根県等			
	留意点	コハクチョウ:しまねレッドデータブック(準絶滅危惧)			
サイトの解説	生物・生態	宍道湖は中海とともに、平成17年11月に湿地の保全と賢明な利用を進めることを目的とした条約であるラムサール条約の登録湿地となった。この条約では登録のためのさまざまな基準が設けられおり、宍道湖や中海は①水鳥が2万羽以上利用する、②水鳥一種の個体数の1%以上が利用するといった項目が登録基準を満たしている。 宍道湖・中海には、毎年10万羽以上のカモ類が渡来し越冬する。カモ類には潜ることができるカモのなかま(海ガモ)と潜ることができないカモのなかま(陸ガモ)に大別されるが、宍道湖・中海には海ガモが特に多い。 最も多いのはキンクロハジロと呼ばれる海ガモで、同じ海ガモのスズガモやホシハジロも万羽単位で渡来する。キンクロハジロの主な餌は、宍道湖ではヤマトシジミ、中海ではホトトギスガイなどの貝類で、水中に潜って湖底の底生動物を捕食する。宍道湖では、わが国の漁獲量の約4割を占めるシジミの豊富さが、海ガモたちを支えている。 一方、マガモやカルガモなどの陸ガモも、海ガモほどは多くはないが多くの種類のカモ類が渡来している。これらの陸ガモは、周辺の田んぼや水路などに飛来し、陸上で落穂などを採餌している。 カモ類の他にも冬鳥を中心に多くの鳥類が渡来しており、コハクチョウやマガンがその代表といえる。キンクロハジロ、スズガモ、ホシハジロ、コハクチョウ、マガンなどは、全世界における種の1%以上が定期的に渡来しており、宍道湖・中海一帯の豊かな自然が、これらの鳥類を支えている。			
	地形・地質、歴史・文化等	ラムサール条約では、湿地の自然や生き物を護りながら未来にも湿地の恵みを受け継がれていけるように、湿地をうまく、すなわち適正に利用していくことが条約認定の一つの条件になっている。このことを、「ワイズ・ユース(Wise Use)」といって、日本語では「賢明な利用」と呼ばれている。ジオパークにおいても、古くから利用されてきた地域資源(たとえば来待石)を護りながら賢く利用することも重要な活動といえる。			
写真・図等		 中海に渡来した海ガモのなかまホシハジロ			
参考文献		佐藤仁志(2015) 松江市史 通史編1自然環境・原始・古代(松江市史編集委員会): 139. 松江市.			